

6年生のみんなへ

久しぶりだね。元気になっていますか？体調はくずしてないですか？少し長くなりますが、どうしてもみんなに伝えたい思いがあります。最後まで読んでくれたら、うれしいです。

休校が決まった日。カウントダウンが残り「9日」になった日。また元気で会おうねと言葉を交わしたね。でも、急に休みが増えてカウントダウンが「4日」にまで減ってしまいました。先生も正直おどろいて、何も言葉がでませんでした。誰もいない教室に行き、今までの日々を思っていました。卒業まであと数日。みんなと一緒にやりたいこと、みんなに伝えたいこと、楽しみにしていたことが山ほどありました。授業も、遊びも、お楽しみ会も、そして卒業式も……一体どうなるんだ、どうすればいいんだ。答えのわからない疑問が頭の中をめぐりました。『このまま春休みに入ったら、昨日の授業が最後になってしまうの。』『みんなの今までの頑張りは……』行き場のない悲しみに、思わずなみだがあふれてきました。

職員室に戻ると、臨時の会議がありました。そこで、校長先生が先生方に向けて話しました。「今後どうなるかは、今現在札幌市からはまだ何も連絡が来ていません。ですが、卒業式だけはどうか無事にできるよう、この北園小学校で過ごした6年間に、子どもたちがしっかりと区切りを付けられるよう、みなさんで知恵をしばっていきましょう。」

その話を聞いて、先生方はみんな大きくなずいていました。6年生の先生だけでなく、北園小の先生方は、旅立つみんなのことを一番に思っていたのです。6年生が全員、笑顔で卒業していけるにはどうすればいいか、先生方みんなで考え続け、残りの5日間に向けて準備をしました。

そんな中、再び休業日延長のお知らせが舞い込んできました。卒業式におうちの人が参加できないことも決まりました。予想もしていなかった出来事に、もうただただぼうぜんとしてしまいました。みんなやおうちの人の気持ちを思うと、もうなみだが止まりませんでした。みんなもびつくりしたと思います。休校の間、本当にふくざつな気持ちだったと思います。つらい気持ちの人も多いと思います。次々変わるようきように、今後のことを考えると、不安な気持ちでいっぱいだと思います。そばにいて声をかけてあげられないのがとてもつらいです。

でも、みんなががんばってきた6年間をしめくる最後の日。形は変わってしまったけれど、6年生全員が最高の笑顔で旅立っていけるように、先生方も全力をつくして準備しています。北園小全員のすべての先生方が、みんなのことを思っています。最高の日になるように、考えてくれています。

そんな光景があったのは、君たち一人一人がこの6年間、北園にたくさんの種をまき続けたからだと思います。後輩たちに優しく声をかけ、困っていたら自ら手を差し伸べる。北園の顔として、委員会やクラブ活動では先頭に立って進める。運動会では学校全体のために、汗をかくまで走り回る。片付けや準備などを嫌な顔一つせず、積極的に行う。みんながまたたくさんの種は、後輩だけでなく、先生方の心にも多くの花を咲かせていたのです。

だから、大丈夫。安心して学校に来てね。このようきょうなので、いつも通りとはいかないかもしれないけれど、こんな時だからこそ、6年生全員と先生方みんなで力を合わせて、“最高の日”にしていきたいと思っています。過ぎてしまった過去を振り返ってばかりでは何も変わりません。先生方は前を向きます。残りの日々を、失った日々以上にできるように、71人全員で最高の毎日を創り上げていこうね。

明日が来るのが、今の時間を過ごせるのが、当たり前ではないこと。去年の震災や今回のことで、痛いほど実感しました。今日という日を、今という時間を大事に大事に過ごしていこうね。大好きなみんなと、過ごせることを幸せに思います。待っているね。最後まで読んでくれて、ありがとう。

小倉先生 齋藤先生 太田先生より